

防災研究会総会 特別講演会の報告

(公社) 日本技術士会近畿本部 (登録) 防災研究会

開催日 : 平成 27 年 6 月 2 日 (火) 19:00~20:00
開催場所 : 日本技術士会近畿本部会議室
参加者数 : 21 名

1. はじめに

平成 27 年 6 月 2 日 (火) 午後 7 時より、近畿本部会議室において防災研究会の総会のあと「特別講演会」を開催しました。防災研究会では、会員の皆様への CPDの一環として、また防災に関わる関係者の方々との交流の場として、本年度も 1 年間に 5 回、「防災講演会」を開催することにしました。

今回は特別講演会として、建設・上下水道・総合技術監理部門の技術士である伊藤東洋雄氏を講師としてお迎えし、「東日本大震災～気仙沼市からの報告～」と題してご講演して頂きました。現地での貴重な経験を通じて、迅速な復興の必要性を痛感され、発災後速やかに効果的に対応することに加えて、発災前から復興に備えておくことの大切さを示唆されるなど非常に参考となるものでした。



2. 講師略歴

昭和 41 年九州工業大学卒業、昭和 41 年～平成 15 年奥村組勤務、その後設計会社勤務を経て、平成 25 年 2 月～平成 26 年 12 月宮城県職員として気仙沼市建設部下水道課へ出向し、震災復興支援業務に従事され、平成 27 年 2 月より寛設計事務所に入社し現在に至っています。

公益社団法人日本技術士会近畿本部幹事 (平成 27 年 6 月～)、特定非営利活動法人都市災害に備える技術者の会理事長、非営利活動法人日本防災士機構防災士奈良県支部幹事、奈良県被災宅地危険度判定士など、防災に関して幅広い活躍をされています。



3. 講演概要

講演の冒頭で、気仙沼市に派遣され復興支援を行った立場から「震災復興をいかに早くするか」をキーワードとして説明することを述べられました。

3.1 はじめに

気仙沼市概要説明に続き、東日本大震災の特徴については、阪神・淡路大震災と比較して次のように整理されています。

東日本大震災の特徴

① 津波

面的被害、船舶・車両による家屋損壊、重油タンク損壊 (火災の広がり)、瓦礫・塩害

② 地盤沈下・水平移動

浸水、海水の遡上 (雨水管、汚水管の機能停止)

③ 地形

支援の困難性（入江ごとに集落・市街地を形成）

3.2 気仙沼市の被災概要

被災概要については、大震災による地盤沈下と津波による浸水、火災状況や気仙沼市終末処理場の状況などについて、写真等により被災状況の特徴を示すとともに、地盤沈下により浸水の危険性が高まっているなど早期の復旧の必要性も併せて示されました。

3.3 気仙沼市の復興計画

気仙沼市では、「津波死ゼロのまちづくり」「早期の産業復活と雇用の確保」「職住復活と生活復興」「持続発展可能な産業の再構築」「スローでスマートなまちと暮らし」「地域に笑顔溢れるまちづくり」を復興の目標として、「気仙沼市震災復興計画」を定めており、その7つの項目について次のように説明されました。

① 災害危険区域の指定

レベル1（数十年～百数十年で起こるもの）は、防潮堤で対応。レベル2（千年に一度程度で起こるもの）対策としては、浸水するところに住民を住ませない。

② 住まいの再建 避難所 応急仮設住宅

現在も仮設住宅のままのところが多い。学校のグラウンドに仮設住宅を建設したところでは、児童生徒は運動不足になり、運動能力の低下や肥満につながるなどの弊害もあった。

成功例では、岩沼市では住民主導で計画を策定したので住宅再建がうまくいっている。

③ 住まいの再建 土地区画整理事業

市から独立行政法人都市再生機構への委託により事業の進捗が図られている。

その他計画には、『④防災集団移転促進事業』『⑤災害公営住宅整備事業』『⑥海岸・漁港機能強化事業』『⑦農地の災害復旧』があります。

3.4 復興への課題

復興への課題としては、事業の遅れを住民が待てない状況にあること、その遅れの原因の1つは国の災害査定の手続きに時間がかかることであること、また、復興まちづくりについては被災の前から計画を検討していくことの必要性など、以下のように整理されています。

① 「復興」ペースに対する市民感覚

② 国の支援・制度（協議設計～保留解除）

③ 下水道事業と他事業との調整

④ 工事費の高騰・作業員不足と社会資本の品質確保

⑤ 被災シミュレーションによるまちづくり計画

3.5 雑感

講演時間の関係で説明を割愛されましたが、講演概要集のおわりに部分で講師が現地に赴き復興支援を行ったことから得られた思いや提言について記載されており、復興のための技術者支援のあり方、復興手続きのマニュアル化や公務員を経験しての公務員についての意見など記載されています。

4. 質疑

(Q) 公務員を経験して思い出になることは何か

(A) 行政内部のことを知ることができた。会社は自分が作ったものが売れないとつぶれる。

市の行政に対するチェック機能は議会であるが、議会が知識不足の場合は、チェック機能が働かないことがある。

5. おわりに

盛況のうちに閉幕した講演会であったが、その後、懇親会を兼ねた交流会が開催され参加者相互の交流を深めました。

（文責 藪内生死）